

令和 3 年 6 月 1 日現在

機関番号：34315

研究種目：若手研究

研究期間：2018～2020

課題番号：18K12866

研究課題名（和文）経営幹部層の多様化を促進する要因：上場企業の時系列データを使用した実証的研究

研究課題名（英文）Factors driving diversification of executive teams: An empirical study using longitudinal data from Japanese listed firms

研究代表者

谷川 智彦 (Tanikawa, Tomohiko)

立命館大学・経営学部・准教授

研究者番号：70802635

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 1,700,000円

研究成果の概要（和文）：本研究課題の目的は企業における意思決定主体である経営幹部の多様化の要因を探ることであった。研究期間中、本研究課題の目的を遂行するために必要な経営幹部の多様化することが企業業績にどのような影響を与えるのかを検証する実証研究を行った。その結果、経営幹部における在職期間及び性別の多様化が企業業績と有意な関係があることが明らかとなった。また、本研究課題ではその関係性に過去の企業業績や社長の権力が影響を及ぼしていることも明らかとなった。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究課題の成果の主な学術的意義と社会的意義は日本企業における経営幹部層の多様化が与える影響を実証的に解明した点に見いだせる。既存研究では経営幹部層の多様化の影響に関する実証的研究が不足していた。とりわけ我が国を対象とした実証研究は非常に限定されていた。したがって、本研究課題において経営幹部層の多様化が与える影響を日本の上場企業を対象とした大規模な実証研究から明らかにした点は、学術的重要性だけでなく実務的な重要性も含んでいる。

研究成果の概要（英文）：The purpose of this research project was to explore the factors that contribute to the diversification of executive teams, which is the decision-making body in firms. During the research period, I conducted empirical studies to examine how the diversification of the executive team affects firm performance. The results showed that tenure and gender diversity had a significant relationship with firm performance. The results of these studies also revealed that past firm performance and CEO power had a moderating effect on this relationship.

研究分野：経営学

キーワード：トップ・マネジメント・チーム ダイバーシティ 多様化要因 変化 業績変数

## 1. 研究開始当初の背景

近年、企業経営における競争の激化に伴い、企業は迅速かつ適切に戦略的意思決定を行う重要性が高まっている。こうした企業経営における戦略的意思決定の重要性の高まりは、その戦略的意思決定を行う主体であるトップ・マネジメント・チーム (Top Management Team、以下 TMT と略記) への関心を促す結果となっており、TMT によってなされる戦略的意思決定のメカニズムを理解することが、実務のみならず、学術的にも急務な課題となっている。

TMT による意思決定の源泉を TMT メンバーの個人的属性に求めた経営上層部理論によると、TMT メンバーの個人的属性の分布であるダイバーシティが企業の戦略的意思決定及びその結果である企業の財務業績に重大な影響を与えることが示唆している。だが、TMT におけるダイバーシティが企業の戦略的意思決定及びその結果である財務業績に対して多大な影響を与えることに関しては一定の合意が形成されている一方で、肝心の TMT のダイバーシティはどのような要因によって形成されるのかに対する回答は現在まで皆無であった。とりわけ、企業間における TMT ダイバーシティの相違を説明する要因を特定するだけでなく、TMT ダイバーシティの「変化」、つまり TMT の多様化を促進 (あるいは阻害) する要因を特定することが重要であった。

## 2. 研究の目的

以上の研究背景に基づいて、本研究課題では TMT の多様化を促進 (または阻害) する要因を理論的及び実証的観点より特定することを目的として研究を開始した。

## 3. 研究の方法

本研究課題は以下の方法を用いて実施された。

### (1) 既存研究のレビューと理論研究

はじめに既存研究のレビューを通じて、現状把握及び TMT を多様化される要因の特定を行った。具体的には、当該研究領域における言説形成に強い影響を与える英文学術誌 (e.g., *Academy of Management Journal* や *Journal of Management*) を中心にレビューを行い、TMT を多様化する要因の特定を試みた。

### (2) データ収集

本研究課題の遂行に必要なデータを収集した。財務データや企業データについては所属する研究機関のデータベースを通じて入手可能である。しかし、TMT を構成する役員については別途収集する必要があった。そのため、東洋経済新報社が販売する『役員四季報』のデータベースを購入することで TMT データを収集した。

### (3) 定量的分析の実施

上記のプロセスを通じて収集したデータを用いて定量的な分析を行った。具体的には、TMT のダイバーシティが企業業績に与える影響に関する分析及び TMT のダイバーシティの形成に影響を与える要因に関する分析を行った。

### (4) 研究成果の公表

最後に実証研究を通じて得られた知見を論文としてまとめ、学術雑誌及び学会にて成果の公表を行った。具体的には、*Journal of Leadership & Organization Studies* (査読あり) に論文が公表されると同時に、31st AJBS Annual Conference や EURAM 2019 といった国際学会にて研究成果の報告を行った。

## 4. 研究成果

上記の研究手法に沿った研究成果は以下のとおりである。

### (1) 既存研究のレビューと理論研究

既存研究のレビューを通じて研究課題を遂行、特に仮説構築を行う上で必要となる理論の把握が可能となった。とりわけ、本研究課題では経営上層部理論やパフォーマンス・フィードバック理論、Attraction-Selection-Attrition 理論、エージェンシー理論などを主要な理論として用いたが、それらの理論を文献の精読を通じて理解すると同時に、それらの理論を使用した実証研究を渉猟することで実証への応用についての知見を深めた。さらに、直近に出版された当該研究領域の主要学術誌を渉猟することで近年の定量的実証研究に求められる分析の水準を把握した。

### (2) データの収集

上記の既存研究のレビューを通じて構築された仮説を検証するために必要なデータを収集した。役員データについて、研究期間開始以前より限られた年度のデータについては保有していたが、しかし、時系列データを構築するために必要となる複数年のデータを整備した。それに伴い、必要となった企業・財務データについても追加で収集した。その結果、研究仮説をより頑強に検証可能な複数年のデータを整備することが可能になった。

### (3) 定量的実証研究の実施

上記の研究成果によって整備されたデータを使用して、本研究課題における実証研究に取り組んだ。本研究課題では、本研究課題の主たる目的である TMT ダイバーシティの形成に与える影響を検証する前に、TMT ダイバーシティが企業業績に与える影響に関する実証研究を行った。その後、TMT ダイバーシティの形成に関する実証研究を行った。

### (4) 研究成果の公表

本研究課題における実証研究の結果、主に以下のような研究成果が公表された。

#### 国際英文査読誌への論文の掲載

TMT の在職期間におけるダイバーシティと企業業績との関係性を扱った研究が国際英文査読誌である Journal of Leadership & Organization Studies に公表された。この論文ではエージェント理論に基づいて社長が在職期間におけるダイバーシティと企業業績との関係性を調整すると同時に、パフォーマンス・フィードバック理論に基づいて、その影響が過去の企業によって調整されることを明らかにした。

#### 国際学会での研究報告

また、TMT の性別におけるダイバーシティと企業業績との関係性、及びその関係性に社長の存在が与える影響について検証した論文が経営学における有力な国際学会である BAM2019 にて報告された。この論文ではネットワーク理論などの知見から社長が TMT においてマイノリティな存在である女性とマジョリティである男性とを結びつける役割を担う点に注目し、TMT の性別におけるダイバーシティと企業業績との関係性において社長が TMT の性別におけるダイバーシティと企業業績との関係性を調整することを実証的に明らかにした。

以上の研究成果に基づいて本研究の研究目的である TMT ダイバーシティの形成に影響を与える影響の実証研究に取り組んだ。しかし、上記の研究成果を査読付き英文査読誌に投稿するプロセスにおいて、極度に同質的な日本の TMT のみを取り上げること、そして複数年度とはいえ断続的なデータのみで仮説検証を行うことの限界が査読者より指摘された。以上の指摘により本研究課題を拡張する必要性を痛感したため、研究期間の途中で基盤研究 B の前年度応募に応募し採択された。研究成果については上記の限界を解決した上で、再分析を行い、再度英文査読誌に投稿することを予定している。また、TMT ダイバーシティの形成要因に関する研究についても再度データベースを整備した後に再分析を予定している。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計1件（うち査読付論文 1件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 Tanikawa, T., and Jung, Y.	4. 巻 26
2. 論文標題 CEO power and top management team tenure diversity: Implications for firm performance	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Journal of Leadership & Organizational Studies	6. 最初と最後の頁 256-272
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1177/1548051818789371	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計2件（うち招待講演 0件/うち国際学会 2件）

1. 発表者名 Tanikawa, T., and Jung, Y.
2. 発表標題 When Does CEO Power Matter? TMT Diversity and Firm Performance in Japan
3. 学会等名 31st AJBS Annual Conference（国際学会）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Tanikawa, T., and Jung, T.
2. 発表標題 Does CEO power moderate the relationship between TMT gender diversity and firm performance? Evidence from Japanese firms
3. 学会等名 EURAM 2019（国際学会）
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計1件

1. 著者名 高橋 正泰、竹内 倫和、福原 康司、鄭有希、谷川智彦、中村暁子、伊藤真一、清宮徹、増田靖、小林満男	4. 発行年 2019年
2. 出版社 学文社	5. 総ページ数 232
3. 書名 ミクロ組織論	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
--	---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------